


砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

 鳥取医療センター

発行責任者：柏木 徹

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

鳥取医療センターは、昨年4月に国立療養所から独立行政法人国立病院機構傘下の病院に移行した2つの旧国立療養所が本年7月に統合し、名称も鳥取医療センターと改めて生まれた病院です。総病床数は560床、主な診療機能は四つの政策医療、即ち、①精神疾患に関する高度で専門的な医療、②重症心身障害、③神経・筋疾患、④呼吸器疾患に関する専門医療を実施することを第一使命とするとともに、主として精神疾患に関する臨床研究を行う臨床研究部が設置され、臨床研究に積極的に取り組み、その成果を情報発信することも求められている病院です。また、教育研修における役割をも果たさなければなりません。

統合後早い時期から広報紙発行も課題として認識していましたが、やっと今日その実現を見たことは職員一同にとっても喜ばしいことと思います。今後、各四半期毎の発行を目指して院内外への情報発信の基地になるものと期待しています。



院長 柏木 徹

鳥取医療センターの診療内容

副院長 下田 光太郎

鳥取医療センターは平成17年7月1日に旧西鳥取病院と旧鳥取病院が西鳥取病院の地で統合一体化した病院です。新病院の診療内容はそれぞれの病院が行っていた医療を継続発展したものです。当院の診療内容について病棟ごとに入



院医療を紹介致します。新病院は第1病棟から第13病棟まで12病棟あります（4病棟は欠番）。この度の統合に伴う整備で第1、2病棟では全面的改装増築が行われました。3病棟から8病棟は不備な点は改修しながらもそのまま使用しています。さらに第9病棟から13病棟までは新たに新築された病棟です。この度改装又は新築された病棟は新たな施設基準に則り設計竣工されたために今までの病棟とは全くイメージの異なる広く明るい病棟になっています。

第1病棟は50床の神経難病病棟です。この病棟ではパーキンソン病やその類縁疾患、筋萎縮性側索硬化症、所謂 ALS、さらに脊髄小脳変性

症等の進行性の神経疾患の診断と治療が行われています。神経内科医、専門看護スタッフ、理学療法士、言語聴覚士等多くの医療スタッフの協力の下に入院医療から在宅支援医療まで幅広い医療が行われています。病状により人工呼吸器の装着を余儀なくされる患者さんもおられ安心して医療が受けられるよう最新の器機と注意が払われています。この度は一階になりましたので、車椅子や、ストレッチャーでのあるいは人工呼吸器をつけたままでの散歩がより便利になり、多くの利用者に喜ばれています。

第2病棟は50床の結核病棟です。そのうち18床は新たに増築された部分で完全に区画された陰圧病床となっており、今まで他院へ転送されていた、多剤耐性結核患者さんも十分利用できるような構造になっています。呼吸器内科、内科、呼吸器外科の先生との協力により患者さんを診ています。残る32床は18床とは完全に区画されているために将来的には一般病床として使用に耐えうる構造になっています。

第3病棟は一般病床として神経内科、内科、外科、小児科、精神科とあらゆる疾患と各科のDrが使用できる病棟となっています。現在は脳卒中リハビリテーション医療、老人医療、高次脳機能障害医療、小児の肺炎等の患者さんの診断と治療を行っています。この病棟でも専門の医師、理学療法士、言語聴覚士、専門看護スタッフのチームプレーのもとで日々の診療、療養、さらには様々の機能訓練が行われています。

第5、6、7、8病棟は一個病棟それぞれ40床で、重症心身障害患者さんが中長期的に入院され、医療・療育を受けています。重心医療は入院が長期になるために、専属の児童指導員、保育士、看護師、理学療法士、言語聴覚士との連携の下に、日々の療育や診療が行われています。また未就学児者においては白兔養護学校の訪問学級が当院で開設されています。最近は超重症心身障害児者の方々の医療を積極的に行っ



待ち合いルーム

ています。また在宅の重症心身障害児者の短期入院も各病棟に数名宛入院し、医療と療育の場となっています。

新病院ではこの度の統合で新たに250床の精神病棟を新築致しました。当院の中で最も東側にあるデイケア・精神病棟は1階より3階までが閉鎖病棟で第9、10、11病棟となっており、4階はデイケア・作業棟となっています。デイケア作業棟では外来通院患者さんのデイケアの



デイケア（手工芸室）

みならず、入院患者さんの作業療法等が行われています。精神科病棟でも専門の精神科医、看護師、作業療法士、心理療法士等多くの医療関係者のチームプレイで医療が行われています。第9病棟（52床）は慢性期の難治性精神疾患の患者さんが中心の病棟です。第10病棟（50床）は合併症を伴った慢性期疾患を中心として診断治療を行う病棟です。第11病棟（40床）は急性期の精神疾患患者さんの診断と治療を主に行います。新築された真ん中の建物は外来検査精神病棟で、その2階と3階に2つの開放病棟があります。4階部分は精神科の外来と、検査部門です。



病棟スタッフステーション

2階の第12病棟（54床）と、3階の第13病棟（54床）はいずれも慢性期の落ち着いた精神疾患や退院前の患者さん、またアルコール依存症の患者さんなどが入院し治療に専念しています。



外来ステーション

新築部分の最も西側の建物は外来診療棟です。正面玄関のある外来部門は4階となっていますがこれは旧病院の1階に相当します。各科の外来と受付窓口である医事、レントゲン、薬局があります。レントゲン部門には従来からのCTと共に最新鋭の1.5テスラーの高機能MRIを整備しました。またその3階部分には中材、手術室、給食部門が新たに新設されました。2階にはエネルギー部門があります。

各病棟の特徴と、新築された建物を中心に紹介してみました。各診療科についての詳細はいずれまた紹介いたします。

多目的ホール

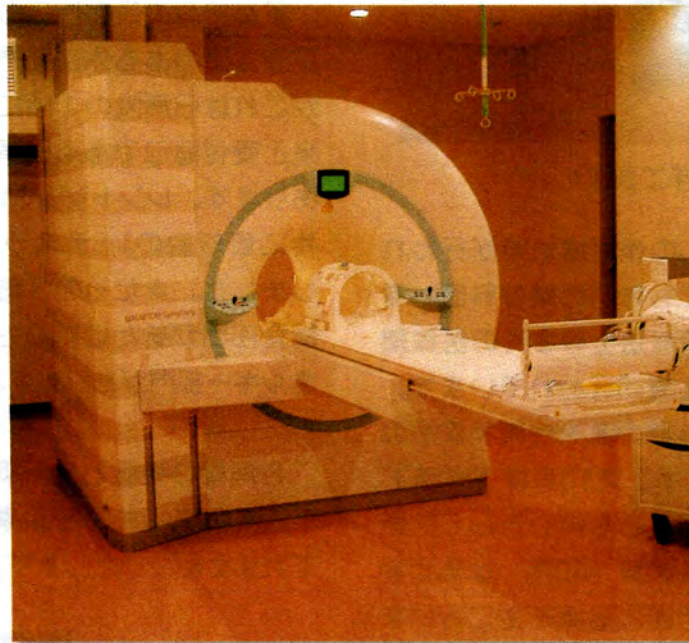


北側風景

MR I の紹介

本年11月より待望のMRIが本格稼働しています。そこでMRIについて機種の詳細を報告するとともに、既にご存じの方々も多いと思われませんが、その利用法等について簡単に紹介します。当院が購入したMRIはシーメンス社製MAGNETOM Symphony Advancedで1.5テスラーという高磁場を駆使し様々の最新機能を備えた機種です。その一つとしては、複数のコイルを組み合わせる広い範囲がコイル交換なしで撮影可能で、検査のスピードアップ、患者さまの負担が軽減されるIPA (Integrated Parallel Acquisition Techniques) を装備しています。また動きを自動制御する新呼吸同期撮像法が搭載され、息止め撮影時に患者さまに無理な負担を強いることなく、臨床価値の高い検査を可能にする事が可能と

なりました。これは当院のように高齢者や小児等の患者さまの撮影には欠かせません。一方この機能PACE (Prospective Acquisition and Correction) を三次元撮影に応用することで、詳細なMRCP (MRIによる胆管・膵管撮影法) 画像を得ることが出来ます。最良の磁場システムと最先端の撮像法で撮影時間の短縮と高品位の画質が得られるiPAT (integrated Parallel Acquisition Techniques) など、そのほかにもいろいろな工夫がなされています。脳・脊髄・骨関節系はもとより、腹部・骨盤領域なども幅



広く詳細な画像が期待できる最新鋭のMRIです。さらに当MRIで特記すべきは最近脳科学で話題に事欠かない機能的MRIの検査が可能な事です。これは脳内の局所的な神経組織の活動を酸素消費量の変化から超高速撮像法であるEPI法を用いて画像とするものです。当MRIの傾斜磁場強度は同種の機械の中では最も強く、そのために空間、時間分解能が非常に優れ鮮明な画像が得られます。この機能を使うと例えば手を動かしたときの脳内のどの部分が動いているかを画像

として見る事が出来ます。これを応用すれば例えば話したり、ものを見たり、皮膚で感じたり等、様々な脳の動きの部位が画像として得ることが出来ます。鳥取医療センターは精神科、神経内科、脳神経小児科と脳を中心とした診療、医療が多くなされていることか

らこのMRIは当院にとってはうってつけの機種と思えます。現在のところは一般外来患者さんや入院患者さんの診断の為に一般的な撮像法でしか利用されていませんが、将来的には様々な神経活動の条件設定を行い、以上述べてきたような脳機能の画像的診断を行う予定です。

以上御紹介しましたように県内でも有数の高機能のMRIですので、当院のみならず多くの医院ならびに病院の先生方にお気軽にご利用いただければと考えています。その節にはぜひ御一報いただければと思います。 (下田)

『成人を祝う会開催される』

療育指導室 保育士 山根幸子・古瀬なお子



10月5日（水）
院内訓練棟にて重
心病棟1名、通園
2名の方の「成人
を祝う会」が盛大
に開催されました。

辺り一面に飾ら
れたコスモスとたくさんの拍手に包まれた会場
に、とても堂々と笑顔で入場されました。院長
はじめ、白兔養護学校長の祝辞、記念品贈呈と
会は進み、新成人の方々のプロフィール紹介で
は、笑顔いっぱいの素敵な写真の数々が、大き
くスクリーンに映し出されました。この笑顔が
生まれるためには、ご家族の方々や周りの人々
の言葉では言い表せないご苦労があったのでは
ないかと思えます。いろいろな出来事を乗り越

えての20年を想い、胸が熱くなりました。

今回はオカリナ奏者の方にもお祝いに来てい
ただきました。「アメージンググレース」が演
奏されると会場が一瞬静まりかえり、その素敵
なオカリナの音色と歌声に聴き入っていました。
オカリナとピアノに合わせてみんなで歌った「世
界にひとつだけの花」♪ナンバーワンにならな
くてもいい、もともと特別なオンリーワン…♪
会場は割れんばかりの拍手の中、会は終わりを
迎えました。

これからも誰かのために、自分のために一生
懸命、笑顔いっぱい過ごしてオンリーワンの素
敵な花を咲かせてほしいなと思えます。

ご参列いただき、また、準備等お世話いた
だきましたご家族の皆様、来賓の皆様、病院関係
者の皆様本当にありがとうございました。



路線バスが病院に乗り入れ

鳥取駅から西方約10キロメートルの鳥取医療センタ
ーに、11月1日から地元で運行している路線バスが病
院玄関前まで乗り入れを開始いたしました。

鳥取市の中心部の鳥取駅から、また鳥取市西部地区の
美萩野・吉岡・鹿野・青谷地区から往復ともに各16便で、
通院・来院などの足の確保のため待ちこがれていたもの
であり、利便性の向上が図られるものと期待は大きい。

7月1日の統合には間に合わなかったものの早期の運
行開始は、関係者各位の並々ならぬご理解とご協力の賜
ものと感謝している次第です。



外来診療科担当医表

平成 17 年 12 月 1 日現在

診療科		曜日	月	火	水	木	金
内科				岩田		塩	
				小西		小西	
内科(検査)					岩田		岩田
精神科	初診	診察室6	坂本	土井	助川	松島	高田
		診察室7	池成	池成	坂本	林	林
	再診	診察室1	高田	松島	土井	高田	土井
		診察室2	松島	坂本	川口	助川	坂本
		診察室3	池成	林	林	池成	池成
	診察室8	岩田			岩田		
神経内科		1	下田	岡田	井上	金藤	下田
		2	後藤	下田	金藤	岡田	井上
小児科		1	中野	小松	赤星	中野	赤星
外科			池田		池田		池田
専門外来	睡眠外来	精神科 5	坂本		高田		高田
	神経内科(予約制)		失語症 パーキンソン病	高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病	嚥下障害 失語症	失語症 パーキンソン病
			下田	下田	井上	金藤	下田
小児科(予約制)		発達外来	発達外来	発達外来		発達外来	
		小枝	赤星	中野	予防接種 15:00~16:00	竹内	

- ◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津 876 番地
- ◆電話 0857 - 59 - 1111
- ◆診療受付時間 午前8時30分～午前11時30分
- ◆専門外来診療時間 午後1時30分～午後3時00分
- ◆休日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。

当センターは、人口20万人余を有する鳥取市の西部に位置し、JR山陰本線「鳥取駅」から米子方面行きに乗り列車で、「鳥取大学前駅(約10分)」と「末恒駅(約15分)」のほぼ中間にあり、両駅から徒歩にて約20分。または、鳥取駅前からバス(古岡温泉行、鹿野行、青谷行等)にて約30分、「鳥取医療センター」下車。国道9号線に面した丘陵地にあります。

